祝 辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業後は、社会人となる方、進学される方、それぞれが、さらなる飛躍を目指して一生懸命頑張ってくれるものと大いに期待します。

また、今日まで、ご指導いただきました小園校長先生を始めとする教職員の皆様方に、改めて感謝を申し上げます。

あわせて、地域の皆様方にも、陰日向になり、生徒の皆さんの成長にお力添えをいただきましたことに、改めて感謝を申し上げます。

そして、保護者の皆様方、本日のご子息のご卒業、心よりお祝いを申し上げます。

さて、一昨年からの新型コロナウイルスによる影響は、いまだ第6波として続いております。

卒業生の皆さんにとって、高校生活3年間のうちの2年間はコロナ禍にあり、思い描いていた高校生活ではなかったかもしれません。

しかし、こうした逆境にも負けず、在校生の模範となり、仁賀保高校を牽引してくれました。皆さんには心から敬意を表したいと思います。

勉強やスポーツ、地域活動などに精一杯取り組んできた、この3年間の経験の全てが、生涯忘れられない、素晴らしい財産となり、必ずや、長い人生の中で、心の糧となって心の中に刻まれていくものと確信します。

さて、今日のこの日までに、頑張ってきた皆さんに、卒業にあたり、日ごろから特に若い人たちへの「はなむけ」としての言葉を、ここでお贈りさせていただきたいと思います。

それは、フランスの小説家、ジュール・ベルヌの「人間が想像できることは人間が必ず実現できる」という言葉です。

人間が想像してきたものは、人間はいずれそれを現実化するというものです。

ドラえもんの道具も、タケコプター＝ドローンといったように、将来、未来においては必ずや現実のものとなります。

あるとき、日本IBMのエンジニアの人が、私に問いかけてきたことがあります。

「ドラえもんの道具の中で次に実現するのは何だと思いますか。」と。

答えは、「どこでもドア」です。

もちろん、実際に扉を開けたら、そこが別の国だったということではありません。言いたかったのは、デジタル革命による、5G、6Gといった高速通信の発達により、まるで本物と見間違ふほどのリアルな映像で、別の場所に人々を映し出すことができるようになるということです。

今、皆さんの隣に座っている人が、もしかしたら全く別の場所において、今、そこに映し出されているのかもしれないのです。その場になくても、その場にいるような仮想現実が「どこでもドア」を実現させるのです。

では、想像するために必要なことは何でしょうか。

それは、知識と経験です。

知らないことを想像することはできませんし、経験していなければ、アイデアは生まれてこないのです。

思い出してみてください。皆さんは小さい頃、何に憧れていましたか。多くの男の子が、自分は将来、仮面ライダーみたいなヒーローになりたいとか、女の子ならプリキュアになりたいとか言っていないでしたか。

さすがに、今の皆さんの中に、未だにそんなことを言っている人はいないと思います。それは成長するにつれて、テレビの中のヒーローは実在しないことを知ってしまったからです。なんとなく寂しい話ではあります。

ですが、逆に知識と経験の中から、むしろ子どもの頃の夢を膨らませ、創造性を発揮し、自分たちで新たなアクションヒーローを生み出す大人たちもいます。それが皆さんの先輩である「超神ネイガー」です。

創造力を掻き立てるのは、好奇心と探求心です。今日この日まで、皆さんの好奇心と探求心を刺激するのは、私たち大人の役割でしたが、これからは自らの力で学んでいかななくてはなりません。

好奇心と探求心を常に持ち続けて、常に学び続けて、想像し、創造する人になっていただきたいと思います。

皆さんの健闘をお祈りします。

結びに、限りない可能性を秘めた、卒業生の皆さんの輝かしい未来と、仁賀保高等学校の益々のご発展を、心から、ご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

本日は、誠に、おめでとうございます。

令和4年3月1日

にかほ市長 市川 雄次